IDを利活用したバリアフリー観光・移動、避難・救護システム

別紙3

提案者	新居浜市、株式会社 ハートネットワーク、慶應義塾大学
実施地域	新居浜市
事業概要	少子高齢化が進み、災害多発地域である観光都市、新居浜市において、バリアフリー観光・移動システム、緊急時・災害時はバリアフリー避難・救護システムとして、利用可能なICTバリアフリーシステムを構築する。行政、地域メディア、コミュニティが一体となった救護体制を整備するとともに、要援護者情報及び援護者情報（消防団員、民生員等）のIDを利活用する。

観光都市・新居浜市

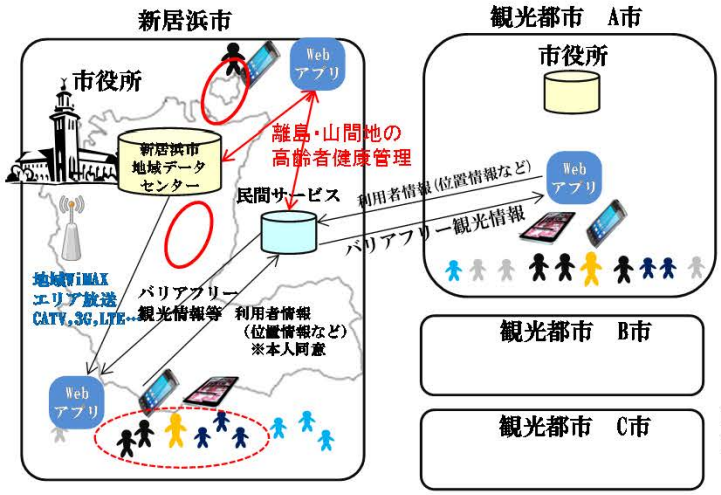
少子高齢化・災害多発地域
都市機能、生活機能が分散された都市構造
（離島・大島、別子山山間地等が存在する複雑な地形構造）

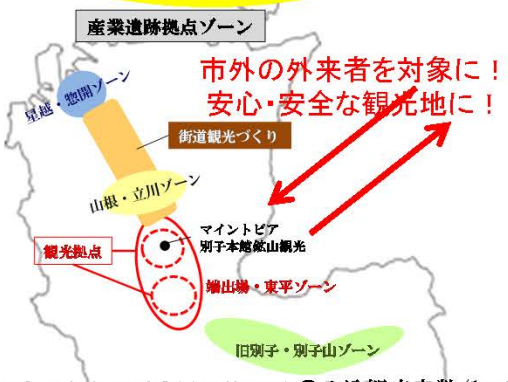
平時と緊急時・災害時の別なく
サービスが連続する
ICTバリアフリーシステムを構築し、
高齢者を含むすべての人々に
安全で安心できる街をつくる

平時

バリアフリー観光・移動システム
障害者・高齢者に配慮した
観光・移動サービスを街全体で提供

バリアフリー健康管理システム
病院が未設置の離島、山間地における
高齢者・障害者の健康管理サービスを提供





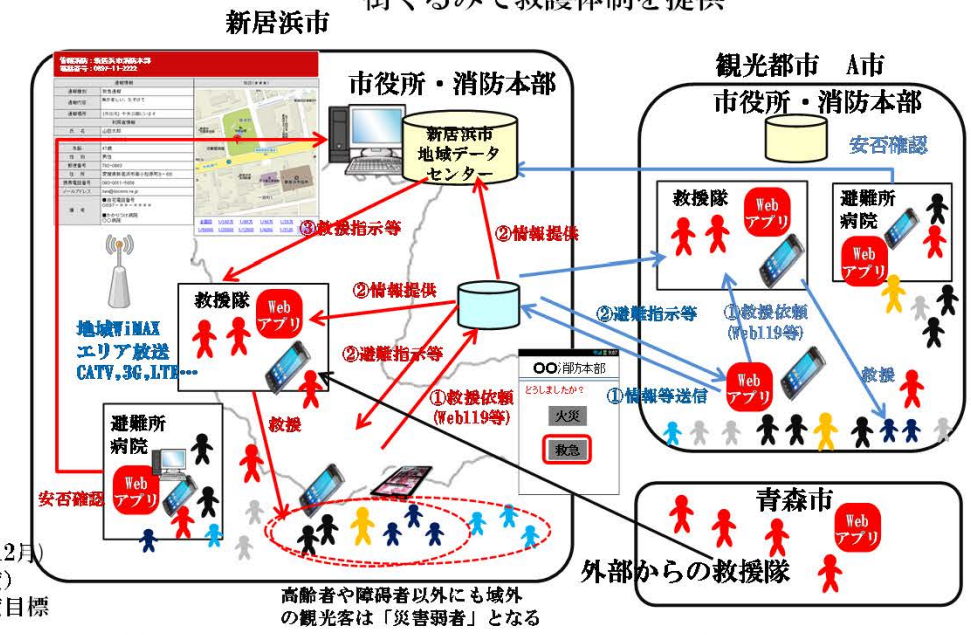
市外の外来者を対象に！
安心・安全な観光地に！

●60歳以上人口が市民の約36％
●高齢化率：27.9 ％
（全国高齢化率：24.6 ％）

●入込観光客数（1～12月）
193万人（平成21年度）
220万人（平成32年度目標

緊急時・災害時

バリアフリー避難・救護システム
市内の高齢者・障害者及び外来者へ
ICTを利活用して、地域コミュニティが一体となって
街ぐるみで救護体制を提供



高齢者や障碍者以外にも域外
の観光客は「災害弱者」となる

新居浜市民 健常者　観光客（市外） 健常者　介助者　新居浜市民 障害者・高齢者　観光客（市外） 障害者・高齢者　救援隊 （消防本部、民生員等）